

# ベトサダニュース

NPO法人  
 自立支援事業所ベトサダ  
 〒001-0021  
 札幌市北区北21条西2丁目  
 1番3号  
 TEL 011-716-5130  
 FAX 011-708-7117  
 http://www.npo-bethesda.com  
 mail: office@npo-bethesda.com

現在入荘者・・・三十二名

四月〜七月の入荘者・・・九十七名

内訳

自立・・・三十七名  
 生保・・・二十九名  
 不明・・・十一名

八月十九日現在



## 年に一度の夏祭り

### 新たな困窮者が

・・・もつと・・・もつと

暑い夏が過ぎて行きますが、皆さまに残暑お見舞い申し上げます。今週、広島で大災害がおきました。北海道でも大雨の被害がでています。

山の土砂がなだれのように、崩れおちて、人や家をのみこみ、つぶしました。多くの人命は奪われ、生活は壊されました。

その中で、新たな生活困窮者が、現状から言うと、増えて行きます！東北大震災の時もそうです。その影響で生活は困窮し、生きづらさを抱えて苦しみます。

苦悩の日に、ベトサダが光だった、と聞いています。

本当に、野宿の苦しさは、壮絶な孤立なのです。

吐くものがなく胃液を吐いた、豊平川のみずは美味しい、飢えに苦しみ罪を犯すのではないか、と怖かった。

ベトサダは頑張つて、多様なかたの受け入れをして、活動しています。

代表 眞鍋

### ベトサダの活動のようす

電話で二十四時間の相談の受付と、札幌駅、大通公園、札幌地下歩行空間他で巡回を実施し、ホームレス状態にある人達からの相談を受け付け、早期対応を計り、希望者にはシェルターを提供し、個別の事情に合わせた支援を行いました。

これからの生活をどのようにするか、様々な課題に対し、支援対象者へ寄り添った支援を行い、一緒に考えていきました。その結果、自立した生活を送りたいとの意欲を喚起することが出来ました。

その方達の中で、他のサービス提供への調整を図る必要があった方百十六名については、住民票及び保険証の取得の付き添いや、早期の就労が難しい方には、中間就労の場を提供するなど、関係機関との連携を計り、社会との繋がりを持てるよう支援を行いました。



就労を開始したいと希望する人には、住居を提供し、求職中の住まいを確保し、就労開始に向け支援を行いました。平成二十五年七月から、平成二十六年六月末日までの就労支援対象者は、三百十四名で、そのうち九十八名が新たに就労し、自立することが出来ました。他の方についても就労は確保され、自立に向けた支援を継続しています。

これらの伴走型支援を行う事により、ホームレスであった人が再度路上生活に戻り、可能性は低くなり、経済的に自立した生活を送る事に繋がりました。



再出発！頑張るぞ！

現在ベトサダ荘では、三十二名（平成二十六年七月末現在）の人が、自立に向け生活しています。十八歳から五十四歳までの入居者で、平均三十四歳と極めて低年齢化傾向にあります。

平成二十六年四月より七月末までの入荘者は九十七名で、その期間の内の自立者は三十七名、生活保護受給者は二十九名、不明は十一名になります。

平成二十五年度は緊急シェルター対応及び、自立支援者数は年間三百十四名が利用しました。

期間の長短に関わらず、支援希望者は後を絶ちません。中間就労等の効力に由るものか、実質自立した人は九十八名になります。昨年の倍以上の数字を上回りました。

若年層が多くなったという事も有りますが、早期就労を目指し、年間プラン（長期・短期）を立て実行し、期間内での貯蓄が出来ていたからだと思います。数値による目標設定は出来ませんが、継続的伴走型支援により、個々と向き合い、状況に応じた支援が出来つつあります。

残った二百十六名に関して、百四十七名は、個々に適した関連施設に移行し、生活保護、障がい手帳の申請を行いました。残った六十九名中二名は、再度収監され、六十七名は残念ながら無断退荘で行方不明です。

これからも早急な自立を促すのではなく、地域や連携団体等と、支援方法を共有し、社会復帰した後も路上生活に戻らないように、絆を強くし、継続的伴走型支援を行っていきたくと考えています。

施設長 藤原



**町を綺麗に**



**入荘者とスタッフで  
ごみ拾い活動を  
継続して行っています**

**暑いっっっ!**



8月3日、日曜日、朝から気温がグングン上昇し、あつという間に最高気温は31.3度を観測しました。

仕事が休みの者や、就活中の者、スタッフで町内のゴミ拾いをしてきました。

このゴミ拾いは、町内の活動とは別で、独自にベトサダで、月に一度必ず行なっています。こうした行動が、少しずつですが、社会復帰への一歩になると思っております。ご支援して下さる会員のみなさまへ、入荘者が直接的に感謝の意を示すことは、なかなかできませんが、僅かでも社会貢献すること、ご恩に報いることができればと、全員そういった気持ちで町を綺麗にしました。



**ご寄贈  
有難うございます**

先日寄贈いただいた新鮮な野菜とお米、さらにベトサダの小さな畑で収穫した食材が、食卓を彩りました。

お米、調味料、お菓子、野菜などの寄贈はもちろんです。服や布団などの寄贈もとてもありがたく使わせていただいております。

みなさまからの会費や寄附を**大切に有効に**、入荘者の自立へのためにこれからも活用していこうと思っております。

**入荘者の声**

最初に僕がベトサダに来た時は、三日間何も口にしていませんでした。空腹が空いている」という言葉が自分からなかなか言えずにいたら、面談の時に「ご飯は食べていますか? お腹は空いていませんか?」と優しく言っていたとき、素直に色々な話をすることが出来ました。

今、毎日温かいご飯を食べてお風呂に入っています。そして日雇いの仕事にも行っています。自立し、社会復帰をするために明日も**頑張ろう**と思っています。

**ベトサダの畑**



札幌をはじめとして全国各地に「ホームレス支援」の団体があります。その中でもベトサダは、団体の規模や資本的な面を考えると「小さな」部類に入るかと思いますが、しかし、全国を見てもベトサダだけであると思うのは「**24時間の相談受付**」と「**24時間の受け入れ可能な体制**」でしょう。

先日の出来事。深夜0時に電話が鳴りました。札幌近郊の恵庭市からのSOSの電話です。すぐに恵庭市に向かい、電話を掛けて来た方と落ち合う事ができました。

彼の相談を車内で聞きました。実家は苫小牧市であること。衝動的に家を出をし、数日は札幌市ススキノのネットカフェで過ごしていた事。所持金も尽きて、実家に帰ろうと考えるススキノからこの恵庭市まで歩いて来たが、体力の限界を覚えベトサダに電話した事、等々。

話をするうちに、何とか実家に戻れそうとの感触があったので、そのまま苫小牧市の実家に送り届けました。

そして札幌のベトサダ荘に帰って来たのは、当に朝日も昇った午前5時でした。

現在ベトサダは、施設長以下5名のスタッフで運営しています。マンパワー不足を感じることもあります。が、スタッフ全員が「**真鍋代表**」の活動理念に正面から向き合い、行動しています。団体としての規模は小さくとも、その活動内容は「**日本一**」だと自負しています。

**今後ともこの活動をご理解頂き、ご支援下さりますようお願いいたします。**

副施設長談



**みなさまの  
会費・寄附は  
自立を目指す若者の  
生きる希望と  
なります**

ホームレス状況にある人は、今現在も増え続け、彼らの生命と自立への意欲を守るには、**まだ多くの支援が必要**です。

ベトサダは会員のみなさまの温かな心によって活動出来ている部分が大いいです。

**どうぞこれからも、様々な形でのご支援、よろしくお願ひします。**

**◆年会費ご送金先◆**

ゆうちょ銀行  
口座番号 02720145798  
口座名義 NPO法人  
自立支援事業所 ベトサダ

**寝具・バスタオルが  
不足しています**

現在、入荘者のための寝具・バスタオル類が不足しております。

未使用ではなくとも、構いませんので、ご寄贈して下さる方は、ご連絡下さい。

近郊でしたら、取りに伺わせていただきます。

